

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより
第52号
2021(令和3)年4月26日
(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

綿の品質試験結果 — HVI SPECTRUM I による —

2020年に木綿庵の畑で栽培/収穫した綿の、品質試験結果について報告させていただきます。試験は一般財団法人ボーケン品質評価機構(通称 ボーケン。旧・財団法人日本紡績検査協会)の大阪試験センターに依頼しました。試験方法は高速自動格付装置(High Volume Instrument)を用いた「HVI SPECTRUM I」。結果は以下の通りです。試験番号:20220051283。試験環境:温度20℃、相対湿度65%。報告日:2021.3.9。

	原綿の種類	SCI	Mic	Mat	Len	Amt	Unf	SFI	Str	Elg	Moist	Rd	+b	※
1	大和山辺綿:赤木	90	7.00	1.02	0.868	443	80.0	9.5	32.8	5.2	6.9	76.6	9.8	4
2	大和山辺綿:青木	82	7.22	1.01	0.842	461	80.7	9.8	29.8	5.4	6.9	77.3	9.3	4
3	河内綿:神立	61	7.36	1.02	0.740	443	77.5	15.6	29.9	5.9	7.0	78.3	9.1	2
4	河内綿:石切	46	7.47	1.02	0.714	431	75.8	18.5	28.1	6.2	6.9	78.4	8.4	1
5	伯州綿:境港	62	7.26	1.01	0.756	409	77.8	15.9	28.9	5.5	6.9	79.0	9.2	4
6	伯州綿:伊東	47	7.36	1.02	0.770	394	75.0	16.3	28.8	5.4	7.0	77.7	8.9	4
7	真岡綿:真岡	90	6.38	0.99	0.798	462	78.4	11.5	34.1	5.6	7.0	77.8	9.4	4
8	山辺 洋綿アップランド	152	5.08	0.92	1.141	514	87.1	6.7	31.0	5.4	7.0	80.1	7.3	4
9	山辺 和綿の茶綿	9	6.92	0.98	0.672	428	74.7	27.5	24.1	5.9	7.0	36.2	21.4	3

試験項目は以下の通りです。※は提出したサンプルの数。1サンプルの量は繰り綿100g。複数の場合の値は平均値。

SCI 紡績性指数。機械紡績に対する適性を検査機が総合的に自動で数値化する。

Mic 緯度。マイクロネヤ法。マイクロネアは繊維の太さの単位。アップランド綿はおよそ4.0~6.0。

Mat 成熟度指数。綿の成熟度を示している。

Len 繊維長。単位はinch。ちなみに1inch=2.54cm。2cm以下は短繊維。2~3cm中繊維。3cm以上は長繊維。

Amt サンプル量。

Unf 繊維長均斉度%。繊維の長さが揃っているか「ばらけている」かの判定。80%以上だと良。

SFI 短繊維指数。

Str HVI1/8ゲージ強力。強度。アップランド綿系でおよそ28、超長綿で40。

Elg 伸度%。

Moist 水分率%。

Rd 色相。コットンカラーメーター法。反射率(輝き)

+b 色相。コットンカラーメーター法。黄色の度合い。

綿の品質は栽培地の風土やその年の天候、栽培方法等によって大きく変化します。そのため一概には言えませんが、今回の試験結果からは大和山辺綿(やまとやまのべめん:2008年より木綿庵の畑で種を自家採取し、栽培をつづけてきた和綿)がアジア綿としては比較的繊維長が長く、均斉度は良好であり、紡績性指数が高い、とすることができます。



綿の品質試験のために提出した試料、計30袋

----- Monthly Data -----

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和3年3月24日~令和3年4月23日)

秋田県1、東京都2、山梨県1、岐阜県2、京都府2、大阪府3、兵庫県1、和歌山県1、岡山県1

【H.A.M.A.木綿庵】(令和3年3月24日~令和3年4月23日)

メールを含む各種相談件数9、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数10件17名



《綿の栽培記録 2021》－ 令和3年度版 その3－

天理市乙木町における梅田の感覚的観測データです。○=晴れ。△=曇り。×=雨。○/×=晴のち雨。○|×=晴時々雨。
△:×=曇り一時雨。3月26○、27○、28×、29○、30○、31○|△、4月1○、2○|△、3△|○、4△/×、5
×/○、6△/×、7△/○、8○|△、9○|△、10○、11○、12○|△、13△/×、14×/△、15○|△、16△、17
×、18△|×、19○、20○、21○、22○|△、23○|△、24△|○、25△|○。

綿畝に苦土石灰、鶏糞、綿実粕をすき込みました。ただし、畝によって散布量に変化をつけました。生長の様子を比較するためです。なお、4月7日に5号畑に紅花播種、15日発芽。4月11日に9号畑の北畝に紅花播種、17日発芽。4月11日に6号畑に藍苗を定植。4月20日に9号畑南畝に紅花播種、26日発芽確認。
写真左より：1号畑の全景、5号畑の全景(マルチ畝が紅花畝)、5号畑の紅花の発芽の様子、6号畑の藍苗の様子です。



《草木染め：桜の小枝 その2 — 令和3年3月30日》

今回はほぼ満開の桜の小枝(剪定枝)を用いて染めてみました。若葉を多くつけた小枝1kgに水8ℓ。40分煮出して第1染液、水6ℓで40分煮出して第2染液。2つの染液を一緒にして寝かせ、途中で一度火を入れ、4月2日にあらためて染液を沸騰させ、火を止め、そこに手紡ぎ糸とハンカチを浸けて約6時間放置。藁と綿木の灰汁で媒染。きれいな赤系統の色に染め上がりました。

《草木染め：花梨(かりん)の若葉 — 令和3年4月26日》

花梨の若葉600gに水8ℓ。30分煮出して第1染液、水6ℓで30分煮出して第2染液とし、2つの染液を一緒にして染液としました。今回はすぐに染液に浸けた場合、一晩寝かせて約80℃にしてから火を止めて浸けた場合、沸騰させてからハンカチを浸けてしばらく煮沸した場合、に分けて染まり方を比較してみました。また、焼きみょうばん、綿木の灰汁、草木の灰汁の3種類の媒染材を用いて比べてみました。一番鮮やかな赤系統の色を出すことができたのは、「一晩寝かせてから沸騰、煮沸、草木の灰汁で媒染」でした。

写真左から：満開期の桜の小枝、その染液で糸を染めているところ。花梨の若葉、その染液で染め、媒染したハンカチ。



【綿の加工の作業記録】 (梅田 1人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成30年, 2018年産。丹羽正行氏による打ち綿)
3月24日～4月23日 (作業実日数16日) 糸の総量40.7g (10.9匁) 総時間156分 (2時間36分)
※1分間≒0.261g 1時間≒15.7g (4.2匁)

【研修等の記録】

- 令和3年03月28日「スピンドルで糸紡ぎ：ワークショップ」(天理市福住町：市立福住公民館)講師。
- 令和3年04月05日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」にて、経緋糸を経糸の間に入れ込む作業を行う。
- 令和3年04月16日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」にて、もじり通しに取りかかる。
- 令和3年04月19日「相楽木綿伝承館：機織り教室専科」にて、もじり通しを了える。

